

慶応二年二月二十一日

P8310567left

二月

廿一日亥 雨午下より漸晴

(大津)朝第六時前、石部出立、膳所にては領主より先払足輕三人出、第十二時大津本陣午休本陣(伏見)手前御代官手代出役本陣へ代官より石原使者差越、夕第五時伏見本陣へ着、本夕平糕^(*)渡航の趣に付、樂^レ太^レを^レして此方一行は最前治定の通り明日渡航いたす儀、其分等合として遣す右挨拶の趣同人来り報告す、平糕^(*)より書通を以て明日、御方一行の着船を待受登營可致旨等申越、但此度被請含の御用件□書御書取□来る、御城御門通行印鑑受取として作助正一郎来る、是は御同対^レ方へ達せり也、且乗船断り坂地町行へ不行届、普通の渡船を用い旨^レ申聞る

*平糕、原文は手偏になっている

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。